

裏磐梯に行って

僕は福島県裏磐梯に行って、知りたかったこと、どうしても見てみたかったものがいくつかあります。

その内の1つ目は鳥です。鳥といってもたくさん種類がありますが、その中でも僕は裏磐梯の鳥アカショウビンを見てみたいと思っていました。アカショウビンは、とてもオモシロイ鳴き声の鳥なので、いたらすぐの見つかると思っていましたが、実際に福島に行って、バードウォッチングのコースを歩いたけど、自分のまで見られた鳥は水面にいたカルガモだけでした。

僕の見てみたかったものは鳥だけでなく、動物、小動物の痕跡もその内の1つです。僕は、バードウォッチングのコースでいくつかの動物、小動物の痕跡を見つけることができました。

1つはクマがその場所にいたことがはっきりわかる痕跡でした。それは、クマがアリの巣を掘り返して食べたあとが、そのままの状態が残っていました。いま僕が歩いている道にもクマが出るんだなあと思いました。

2つ目はナメクジの痕跡で、いっぱい生えているキノコに、食べられている跡が残っていて、しかもその痕跡の近くにまだナメクジがいてビックリしました。それに、そのナメクジはふつうに布佐の町の中にあるナメクジとはちがって、とても大きなナメクジで「ヤマナメクジ」という名前で、山にしか生息しないナメクジということがわかりました。

ヤマナメクジは、キノコもたくさん食べるけど、キノコのほかに、木などに生えているコケも食べるとわかりました。バードウォッチングのコースにはキノコやコケがたくさんあったので、ヤマナメクジを見られたのだと思います。

バードウォッチングのコースでは鳥は1羽しか見られなかったけれど、山小屋のようなところでネイチャーガイドの草野先生に、鳥やクマなどの動物についてたくさんのことを教えてもらいました。

鳥には、「留鳥」「旅鳥」「渡り鳥」の3種類に分けられていて、「留鳥」は日本に1年中住んでいる鳥で、スズメなどがその種類です。

「旅鳥」は、日本よりも北の国から来た鳥が1回日本にとどまって、またさらに南へ飛んでいく鳥で、日本は休憩する場所と考えられています。

「渡り鳥」は2種類に分けられていて「夏鳥」と「冬鳥」があります。「夏鳥」は春に繁殖のためにやってきて、エサがたくさんある時期に来て、エサを求めてやってきます。「冬

鳥」も、冬にエサを求めてやってきて子供たちにエサをあげます。

「渡り鳥」は春には虫がふかすため、鳥にとってたくさんのエサがあるので春に来る鳥が多いということがわかりました。

僕は、林間学校で行った福島県で見たカラスは、ふつうにいるカラスよりもくちバシが細かった気がしました。僕の予想は当たっていて草野さんから、カラスには2種類あると聞かされました。

都会や町中にいるカラスはくちバシがふとく「ハシブトカラス」という名前が付いていて、田舎の山里などにいるカラスは「ハシブトカラス」よりもくちバシが細いことから「ハシボソカラス」という名前が付けられています。だから、ふだんぼくたちが見ているカラスは、ただのカラスという名前じゃなくて、ハシブトカラスというちゃんとした名前がついているということがその時はじめてわかりました。

鳥の中には「もうきん類」という鳥の中でも最強の鳥がいます。もうきん類は「タカ」や「ワシ」などの数種類しかいません。タカやワシは天敵がいないために、卵は1個か2個だけ産んで、3ヶ月間という長い時間をかけてゆっくり育てます。もうきん類のくちバシは大きな動物の肉を引きちぎるために大きく発達しています。

もうきん類以外の鳥には、もうきん類と違って天敵がいるので、たくさん産んでもへびや、もうきん類に食べられてしまいます。なので、もうきん類の倍以上の8個程産んで、少しでも子孫を残そうとします。それでもしっかり成長できるのは半分以下という一部だけだそうです。

もうきん類は巣立つのに3カ月もかかるのに、ほかの鳥は3週間くらいしかかからないので、はやく巣立つことができます。

僕が福島県で見たカモは、とてもくちバシが広く、大きかったです。その理由は、エサとなる水草を吸うためで、一度にたくさんの水草を吸うために、広くい大きなくちバシになったということを聞きました。

くちバシによって食べるものが違うことがわかります。ふといくちバシの鳥は木の実などを割って食べたりしますキツツキのようにくちバシが細い鳥は木の実の中の虫や土の中、木の中の虫などを食べます。それぞれ住む環境の違いがくちバシでわかります。

バードウォッチングをするにあたって、頭の中に入れておいたほうがいいことを教えてもらいました。それは、ものさし鳥という鳥です。今見た鳥がどのくらいの大きさの鳥なのかが大体わかるようになると教えてもらいました。

ものさし鳥は小さい方から順に、スズメ、ムクドリ、キジバト、カラスの合計4種類で、今の鳥はスズメよりは大きいけどムクドリよりは小さいというように、大体の大きさが分かるようになっています。

僕が1日目のバードウォッチングで教えてもらったことで1番心に残っているのは、福島県裏磐梯の美しい自然が保たれている理由、自然の食物連鎖がとてもキレイにならなくてそれが実際に起きているからだということです。裏磐梯の食物連鎖はキレイなピラミ

ッド型になっていて6つの階に分かれていて、1番下の最初の段は土です。2段目は土の養分などを吸収して育つ植物です。そして3段目はその植物をエサとして食べる小さな虫です。4段目はその小さな虫をエサにする大型の虫です。5段目は大型の虫をエサにする鳥です。最後の1番上の段は天敵がいないと説明した、もうきん類です。そして、そのもうきん類も死んでしまったら土にかえります。そしてまた食物連鎖が続くということです。

このように食物連鎖が無限に続いているからキレイで緑が多い山や森が保っていられるということを知りました。



クマについて

草野先生には鳥以外にクマについて教えてもらいました。クマは冬眠する前にマツヤニという植物を食べ

てお腹に栓をして、そのあとにドングリなどのタンパク質豊富な食べ物を食べます。目覚めた後、水芭蕉を食べてお腹をこわして大量の排せつ物を出します。

クマは稀に人前に現れます。人前に現れるクマは大体2才くらいのやんちゃなクマが多いと学びました。



野生のクマの食べた後の痕跡（アリの巣）

裏磐梯の山を登って

2日目は山登りでパークボランティアの桑原先生と一緒に登山をして、山や自然について色々なことについて学びました。僕たちは雄国山という山に登りました。

山に入ってからすぐの所にすごい大きなブナの木が生えていて、近所の人はそのブナの木に「ブナ太郎」という名前を付けて山の登り始めと上り終わりに必ず一礼するという、儀式のようなものがあるくらいなので、とてもすごい気なんだなあと思いました。

山道には太い木の根っこがいくつもむき出しになっていて、やっぱり登山をする人が増えたために、歩くたびに裸地化がすごくなってしまったんだなあと思いました。人間のせいで美しい自然が壊されていっているんだなあと改めて学ぶことができました。

午後に遊歩道の所を歩きました。



遊歩道には同じような植物がたくさん生えていたけれど、その中に食虫植物が生えているの

をパークボランティアの桑原先生が見つけて、こんなところに食虫植物が生息しているんだなあと思いました。

遊歩道の所から見える山の中に「牛殺しの山」という山があって昔、水路を確保するために牛に重たい荷物を持たせて山の上から石を転がしていく作業を何回も繰り返したという話をしてもらいました。そのため、牛が力尽きるまでやらせていたというので牛殺しの山という名前がついたと教えてもらいました。

山の頂上に向かっていく途中にとってもきれいな植物を見つけました。



この植物の名前はトリカブトと言って、見た目はとてもきれいで美しい植物だけど、トリカブトの根っこをお湯で煎じて飲ませると、人を簡単に殺すことができるというとても恐ろしい植物でした。実

際に昔、トリカブトの根っこを煎じて飲ませて殺すという殺人事件も起きたと教えてもら

い、それほど毒性が強いということがわかりました。

動物の痕跡発見！！

山の山頂にたどり着いたあとに下っている途中に僕が1番見たかった点のフンをパークボランティアの桑原先生が見つけてやっぱり石の上にするんだなぁと思いました。



テンは自分のフンでいろいろな所においをつけてマーキングする習性がある、目立つ石の上にフンをするのが特徴です。僕は福島県に行って一番見たいものが自分の目で見られて、写真に収めることができよかったで

す。

さらに下って行った所に洗掘がありました。写真で見たところと同じ場所で、やっぱり人間が山に入る事だけでも自然破壊につながってしまうのかなぁと改めて思いました。

最後に一言

僕は福島県裏磐梯に行って、自然についていろいろなことを学べてよかったと思います。